

令和 8 年度 アクションプラン 1

重点項目	思いやりのある子供の育成		
重点課題	相手の立場や思いを考えた言動ができる児童を育てる		
現 状	昨年度は、「相手の気持ちを考えて言葉を使うことができる」児童の育成を目指し、「ほかほか言葉の樹」や挨拶運動、SSTに取り組んだ。その結果、思いやりのある言葉の種類が増えたり、相手を意識した挨拶の仕方を理解したりするなど、相手意識の高まりがみられた。一方で、アンケート結果からは、自分では相手を思いやった言動をしているつもりでも、その思いが十分に相手に伝わっていないという課題が明らかになった。その要因として、学んだ言葉の使い方が十分に身に付いていないことや、相手の立場や思いを考えた言葉の選択ができていないことが考えられる。また、SSTにおいては、振り返りや般化の時間の確保が不十分であり、学びを日常生活に生かす点にも課題が残った。 そこで、これらの課題を踏まえ、今年度は、相手の立場に立ち、相手に伝わる思いやりのある言動ができる児童の育成を目指す。そのために、週 1 回、給食後の 40 分間、「SST→般化（縦割り班遊び）→振り返り」のサイクルを位置付けた取組を行う。1 か月間、同じテーマで継続して取り組み、月ごとにテーマを設定・変更することで、学んだことを様々な場面で活用できるようにする。 「振り返り」では、自己評価と他者評価の両方を行い、自分の言動が相手にどのように受け止められたかを考えさせることで、相手の思いに目を向けさせる。また、教師が活動における児童の具体的な姿を捉え、価値付けし称賛することで、児童が思いやりのある言葉や行動のよさを実感できるようにする。 これらの取組みを計画的に繰り返すことで、児童が遊びや日常生活の中で自然に思いやりのある言動ができるようにし、相手の立場や思いを大切にすることを育成していきたい。		
達成目標	相手の気持ちを考えて声をかけたり、行動したりすることができたと自己評価する児童が 85%以上		
方 策		評価	
		中間	年度末
①	SST で学んだことを実践の中で使う機会を設ける(遊びを通した般化)。振り返りでは自己評価だけでなく、他者からの称賛や励まし、意見を通して思いやりのある言動について考えることのできる振り返りを継続して行うことで、児童が思いやりのある言動を具体的な場面で使えるようにする。		
総合評価			

<評価基準> A…達成した B…ほぼ達成した C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

取 組 状 況
1 達成目標の実態
2 方策について
3 今後の課題と改善策